

糖尿病オープン教室ニュース 「栗一しずくー」2024年4月号



「糖尿病とがんの関係について」

寒暖の激しい気候が続いてはいますが、次第に春の息吹を感じる時期となりました。今回の糖尿病オープン教室ニュースでは糖尿病とがんの関係について解説したいと思います。

糖尿病ではがんの合併が多い？

以前から国の内外で糖尿病の人にがんの発症が多いと報告されていましたが2013年に日本糖尿病学会と日本癌学会が共同して癌に関する委員会報告を行い、糖尿病の患者さんでは、糖尿病でない人を1としたときのがん発症リスクが全ての癌で1.2倍、肝臓がんで1.97倍、すい臓がんで1.85倍、大腸がんで1.4倍増加することが明らかとなりました。また、糖尿病の人のがん死亡リスクは糖尿病でない人に比し1.26~2.2倍高いことも報告されています。

なぜ糖尿病ではがんの発症が多いのでしょうか？

糖尿病で発がんの原因となる因子として

- 1) 糖尿病ではインスリンが効きにくくなり血液中のインスリン濃度が高くなり、この高濃度のインスリンが発がんを促す。
- 2) 高血糖そのものが発がんを促す。
- 3) 糖尿病では全身組織の軽い炎症が生じ、この慢性的な炎症が発がんを促す。
- 4) 糖尿病に伴いやすい肥満が発がんを促す。

など、色々な機序が想定されていますが十分な確証は得られていません。



糖尿病の人が発がんを予防するためには？

以下の因子を是正するようにしましょう。

- 1) 肥満
- 2) 運動不足
- 3) 偏った食事（動物性脂肪の摂りすぎや、野菜・食物繊維の不足など）
- 4) 喫煙
- 5) 過度の飲酒

健康的な食事、運動、
体重管理、禁煙、
節酒に努めましょう。



これらは糖尿病の発症増悪因子であるとともにがんになりやすい生活習慣でもあります。

糖尿病の人ががんになると

- 1) がんになると手術や化学療法を受けることが多く血糖コントロールが悪化しやすく、経口糖尿病薬からインスリン治療に変更せざるを得ない場合があります。
- 2) 血糖コントロールが不良だと術中・術後の合併症が増えるため手術が予定されている場合には術前に血糖コントロールの改善を図る必要があります。
- 3) 感染症にかかりやすく重症化しやすいので迅速な感染症に対する治療が必要となります。
- 4) 食欲低下を呈する際は血糖が変動しやすく血糖コントロールが難しくなります。

がんの早期発見のためには、
以下の検診を1～2年毎に
受けることが大切です。

糖尿病の人はがんの早期発見が大切！！

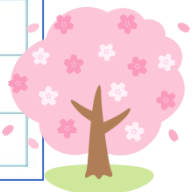
糖尿病の人は定期的に外来を受診されていますが、
糖尿病外来での血液尿検査では、がんの発症や有無が判ることはほぼありません。

市町村のがん検診の項目について

厚生労働省においては、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成20年3月31日付け健発第0331058号厚生労働省健康局長通知別添）を定め、市町村による科学的根拠に基づいたがん検診を推進。

指針で定めるがん検診の内容

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問（問診）、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年1回
乳がん検診	問診及び乳房エックス線検査（マンモグラフィ） ※視診、触診は推奨しない	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年1回



～次回は2024年6月発行予定です～ 糖尿病オープン教室グループ